

2026年9月20日 聖霊降臨後第十七主日礼拝説教
「神への怒りは正しいことか」(ヨナ3章10～4章11節)

○預言者ヨナについて

*紀元前8世紀、北王国の預言者。イスラエルの敵であるアッシリアへ行けとの〈みことば〉に背き、逃げてしまう。

☞魚に吞まれたヨナは、悔い改めの後、神の御声に従う。

○ヨナ3章4節 *ニネベ：アッシリアの都、当時は世界最大の都市

「あと四十日すれば、ニネベの都は滅びる。」

*裁きを聞いた人々は、神を信じて、命の行く先を変えた。

○ヨナ3章10節

「神は彼らの業、彼らが悪の道を離れたことを御覧になり、思い直され、宣告した災いをくださのをやめられた。」

*聖き義しき神は、御怒りを鎮める憐れみ深い御方でもある。

今日のみことば：ヨナ4章4節

「主は言われた。『お前は怒るが、それは正しいことか。』」

①ヨナの語ったとおりに、神が事を成し遂げてくれない。

②神が、北王国を脅かすアッシリアの都を滅ぼさなかった。

⇒ニネベの人々を救う御心を、ヨナは知ろうともしない。

○ヨナ4章9節

「お前はとうごまの木のことと怒るが、それは正しいことか。」

*とうごまも取られて、思いどおりにならないヨナの怒り

問：だれが、この木を育て、大きくした後で枯らせたのか？

「どうしてわたしが、この大いなる都ニネベを惜しまずにいられるだろうか。」(11節)

※神は、ご自身が命を与えた人々の滅びを望みはしない。